

Formula NIPPON NEWS 2010.10.16

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第6戦・予選 [オートボリス]2010年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第6戦 予選大嶋和也(PETRONAS TEAM TOM S)が自身初PPを獲得

秋晴れに恵まれた、10月16日(土)の大分県・オートボリス。朝から多くの観客がサーキットへと足を運び、固唾を呑んで予選を見守った。そんな中、Q2までは白熱のタイムアタック合戦が繰り広げられていたが、Q3は波乱の展開。真っ先にタイムアタックに入ったNo.36 アンドレ・ロッター(PETRONAS TEAM TOMS)がコントロールラインを通過した後、1コーナー先でスピンしコース上にストップしたことによって赤旗が提示され、セッションはそのまま終了。ほとんどのドライバーがQ3でのアタックを行なうことが出来なかった。これによりロッターが暫定PPを獲得したものの、約4時間後に改定となり結局5位。2番手タイムをマークしていたチームメイトのNo.37 大嶋 和也 (PETRONAS TEAM TOMS) が、PPを獲得した。

温かな陽射しの下、午後1時45分から20分間の予選Q1が開始。この時点で気温は18℃、路面温度は33℃まで上昇した。コースがオープンされると、間もなく全車がコースイン。最初からニュータイヤを装着していたのは、No.31 山本 尚貴 (NAKAJIMA RACING) ら5人。その他のドライバーは、ユーズドタイヤで走り始める。ニュータイヤ組は、ここで最初のアタックを敢行。ピットに戻ると2セット目のニュータイヤに交換する。ユーズド組はマシンの状態を確認すると一旦ピットに戻り、最初のニュータイヤ投入のタイミングを待った。そして、セッションの残り時間が7分を切ったあたりで、平手を先頭にほぼ全車が一気にコースイン。タイムアタックへと向かう。ここでトップタイムをマークしたのは、No.19 J.P. デ・オリベira (Mobil 1 TEAM IMPUL)、No.1 ロイック・デュバル (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、ロッターがこれに続いた。

続く10分間のQ2。セッションが開始されると、各車はタイムアタックのタイミングをピットで待つ。そして開始から約4分が経過したところで、全車がコースイン。タイムアタックに向かった。ここでアウトラップの翌周のアタックでまず、ロッターが1'30.997をマークしてトップに立つが、その後デュバルがこのタイムを大きく上回る1'30.582を叩き出し逆転でQ2を制した。またNo.32 小暮 卓史 (NAKAJIMA RACING) がQ2落ちを喫するという波乱があった。

さらに10分間のインターバルを経て、いよいよPPを決定するQ3が開始。ドライバーたちもQ2同様、ニュータイヤを装着してピットで待機。コースインのタイミングを待った。そして、開始から約3分半、真っ先にコースインしたのがロッター。やはりアウトラップを終えたところからタイムアタックを敢行。ここで1'30.879と、Q2のタイムを若干上回ってくる。また、大嶋もここでは1周目からアタック。やや引っ掛かりはしたが、1'31.973をマークした。その他のドライバーは、その翌周にアタックを行なう予定だった。ところがタイムアタックを終えたロッターが1コーナーの先でスピン。その際エンジンがストップし、ライン上にストップしてしまう。これにより赤旗が提示された。開始から5分が経過していたためセッションの延長はなし。結局ほとんどのドライバーがタイムアタックを行なうことができないままセッションは終了した。その結果、セッションの順位は、ロッター、大嶋、平手、No.8 石浦 宏明 (Team LeMans)、デュバルの順。Q3で計測していないオリベira、伊沢、山本はQ2のタイムにより、それぞれ6位、7位、8位となった。しかしこの暫定結果が発表されると、Q3に進出したドライバーが所属するチームのうちPETRONAS TEAM TOMSを除く全4チームが正式抗議。その4時間後に、暫定結果は改定され、予選セッション中の赤旗の原因を作ったということを理由にロッターは4グリッド降格となった。その後控訴が提出されなかったため、これがそのまま正式結果ということになった。

これにより大嶋は、自身初のポールポジションを獲得。平手が2番手、石浦が3番手と、トップ3を日本人ドライバーが占めることになった。タイトルを上位で争っている選手は、デュバルが4番手、ロッターが5番手、オリベiraが6番手。そして、小暮が9番手からの追い上げとなるが、今回もリーダーの入れ代わりがあるのか。3人の外国人ドライバーのグリッドが並んでいることもあり、明日はスタートから火花散る熱戦となることは間違いない。

Formula NIPPON NEWS 2010.10.16

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第6戦・予選 [オートボリス]

予選トップ3 ドライバーのコメント

ちゃんとアタックして結果を出したかった**1位: No.37 大嶋 和也 (PETRONAS TEAM TOM'S)**

朝のフリー走行でニュータイヤの時のバランスが悪かったので、予選に向けてちょっと不安はあったんですけど、セッティングを変更して臨んだ予選Q1はまずまずでした。それでなんとかQ1は通過出来て、Q2でもセットを変更したらもっと良くなって、Q3でもさらにセットを変えて、この時点ではかなりバランスは向上していました。またアンドレが計測1周目にアタックに行っていて、そのほうがセクター3のグリップ高くていいということがあったので、最後はそれに挑戦してみようと思って行った結果、いい方向に向かったということです。でも、もっとちゃんとアタックして結果を出せた方が良かった。だから少し不満が残るというか、すっきりしないですね。初ポールですが、みんながしっかりアタックしての結果ではないので全然うれしくはないです。すごく複雑ですよ。やっぱり初ポールは、納得のいくアタックで獲りたかったです。もう一回予選が出来るものならやりたいですけど、それは無理なので、とにかく明日も全開で走って、ファンにいいレースを見せるしかないと思います。ドライバーに出来ることはそれしかありませんから。

2番手までは行ける、と思った**2位: No.20 平手 晃平 (Mobil 1 TEAM IMPUL)**

予選では、エンジニアの持っていたデータを元に、神頼み的な感じでいろいろと大きくセット変更をしていったら、それがうまく当たって、今朝のフリー走行時から比べればかなり車のバランスは良くなっていました。そしてQ1で走ってみて実際手ごたえを感じて、Q2でも車のバランスを整えたら、さらにいい方向に向かって行きました。ロイックがすごく速かったので、ちょっとポールには届かないかなと思っていたものの2番手くらいまでは全然行けるだろうという状態でQ3に臨んだのですが、思ったほどうまく走ることが出来なかったのはちょっと残念でした。

順位が落ちてもいいからアタックしたかった**3位: No.8 石浦 宏明 (Team LeMans)**

Q1は午前中とはコンディションが変わっていたのですが、予想通りの変化だったので対応出来ました。それからフロントウイングをアジャストして、前はQ2が良くてQ3でタイムを落とすというパターンだったので、今回はQ2をちょっと抑え目に、車のチェックだけしました。抑え目で行っても通過出来る自信があったので。そしてQ3でさらにアジャストして出て行った時は朝よりも良さそうだったので、タイム的にもロイックのQ2のタイムが見えていました。ポール争いが間違いなく出来ると思いながら1コーナーに入ったのですが、赤旗で中止、という結果。気持ちの上では、順位が落ちてでもいいからアタックしたかったですね。でもまあ、明日は気持ちを切り替えて、速さ的には前回よりも今回の方がいいし、優勝を狙って行きたいですね。

Formula NIPPON NEWS 2010.10.16
 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
 第6戦・予選 [オートボリス]

第6戦 オートボリス・予選結果

オートボリス (インターナショナルレーシングコース 全長 4,674km)

天候：晴れ コース：ドライ 気温/路面温度： Q1 18 /33 , Q2 18 /34 , Q3 18 /32
 開始/終了時間 Q1: 13:45 ~ 14:05/Q2: 14:15 ~ 14:25/Q3: 14:35 ~ 14:45

タイムの後の数字は各セッションの順位

Po	No	Name	Team	Q3	Q2	Q1
1	37	大嶋 和也	PETRONAS TEAM TOM'S	1'31.973/1	1'31.248/6	1'31.733/7
2	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	1'35.235/2	1'31.115/4	1'31.492/5
3	8	石浦 宏明	Team LeMans	1'40.871/3	1'31.153/5	1'31.235/4
4	1	ロイック・デュバル	DOCOMO DANDELION	1'41.883/4	R 1'30.582/1	1'31.058/2
5 2	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM'S	/5	1'30.997/2	1'31.182/3
6 1	19	J.P.デ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	/6	1'31.087/3	1'31.053/1
7 1	2	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION	/7	1'31.379/7	1'31.928/9
8 1	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING	/8	1'31.434/8	1'32.282/11
9	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING		1'31.568/9	1'31.912/8
10	10	塚越 広大	HFDP RACING		1'31.695/10	1'32.085/10
11	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans		1'31.726/11	1'31.720/6
12	18	平中 克幸	KCMG		1'32.051/12	1'32.429/12
13	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限			1'32.482/13
14	29	井口 卓人	CERUMO・INGING			1'33.107/14
15	3	松田 次生	KONDO RACING			1'33.280/15

Qualifying3

当該セッションは赤旗にて終了とした。

- No.2, 19, 31 は、当該セッションのタイム未計測のため Qualifying2 の順位を採用する。
- No.36 は、2010 年日本フォーミュラ・ニッポン統一規則 第 24 条 9, 適用により 4 グリッド降格とする。

【この件に関するお問い合わせ】

株式会社日本レースプロモーション
 広報担当 外間
 media@f-nippon.co.jp